

○人権学習プログラム組み立ての基本について

ここに示した人権学習プログラムは、課題への気づきを実践的態度につなげていく学習の流れとして
<気づく> → <広げる・深める> → <計画する> → <実践する> → <振り返る>
の5つの段階を基本として組み立てたものです。

また、それぞれの段階でのねらいや留意点、関連する資料や教科・領域、学習の環境などについても示しました。

学習は、子どもたちの実態や学習のねらいに応じて、柔軟な組み立てが必要です。地域には、それぞれ特色ある学習の素材や教材があります。さらに、一斉授業やテーマ別学習、講演形式やワークショップ形式、読み物資料やビデオ教材など、さまざまな学習形態・学習方法・学習内容などを組み合わせることができます。

ここで示した5つの段階を統合し、繰り返し、発展させながら、それぞれの学校で工夫を凝らし、特色ある人権学習が展開できます。

○人権学習プログラムの見方について

学習テーマ

- ・人権学習のテーマに加え校種(学年)等を示しています。
- ・校種(学年)は、固定したものではありません。内容の工夫により、他の学年に発展させることができます。

主な関連項目：

- ・普遍的な視点からのアプローチ①②③④と、個別的な視点からのアプローチ①②③④の主な関連を示しています。
- (人権教育推進構造図参照)

気づく

学習全体の導入として、「課題に気づく」「課題をつかむ」「課題に関心をもつ」という動機づけの段階です。

広げる・深める

<気づく>の段階から、さらに「課題を追究する」「課題を広げる」「課題から発展させる」という深める段階です。

計画する

「課題解決のために計画を立てる」「くらしや生活につなげるための計画を立てる」という実践につなげようとする段階です。

実践する

「計画したことを実践する」「くらしや生活に生かす」という学習を通して実践的態度の育成を図る段階です。

振り返る

「学習したことや実践したことを評価する」という振り返りとともに、「新たな課題解決へと発展させる」という他の学習や課題意識につなげていく段階です。

○関連する資料の例や教科・領域、学習の環境設定などを示しています。